

### 「受賞の言葉」

新倉 瞳

この度は「齋藤秀雄メモリアル基金賞」の受賞者に選出して頂き、心より感謝申し上げます。今回の受賞が、いつも支えてくださる先生方はじめ、応援してくださる皆さまへの恩返しになれば何より嬉しいです。

私は学生時代、「私たちのチェリスト」というキャッチ・フレーズを頂き少し早めのCDデビューを致しました。それは、世界的な国際コンクール覇者の皆さまのような手の届かない存在ではなく、身近なチェリストの成長をみんなで見守ろうというあたたかなコンセプトのもとでした。しかし、自分ではなかなか自信が持てず、先生方や音楽仲間の助言にも支えられ、少し遅めの留学を決めスイスへ参りました。

スイスへ渡って10年が経ちますが、スイスで出逢ったバロック音楽や現代音楽、さらにはクレズマー音楽はじめ他ジャンルの音楽家の皆さまとの共演も、最近は国内外場所を問わず増えました。また、舞台への出演や歌舞伎とのコラボレーション、演奏家のためのドレスのプロデュースと様々な他業種の皆さまのご縁にも恵まれ、一見音楽とは関係ない事柄も大きな音楽的な栄養となっていることを強く感じています。

齋藤秀雄先生のお考えでもある『アンサンブルの大切さ』。これは音楽にだけでなく、普段の生活にも繋がっていると私は考えています。

自分なりに地道に音楽人生を歩み続け、年齢を重ねてきたことで、自分がやりたい事と自分に出来る事に少しずつ確信を持っていますが、直接師事した先生方からはもちろんのこと、そうでない先生方や先輩方、時には後輩からも学ぶことが多く、日々成長させて頂いております。

今回の受賞は、デビュー15周年を迎えるにあたり、いつも一緒に歩んでくださる皆さまと共に、音楽界を盛り上げ幸せの連鎖をシェアしていくための活力となりました。本当にありがとうございました。

新倉 瞳 氏へ「贈賞にあたって」

齋藤秀雄メモリアル基金賞 選考委員

堤 剛

何と多才なチェリストなのでしょう！これ程多方面にわたる才能に恵まれそれを生かすべく新倉さんはどの道にも積極果敢に取り組み、素晴らしい結果を出しておられる稀有な存在です。しかも幅広い活動をしながらもそこには確固たる信念があり、その強い意志にいささかの揺るぎが無いのは本当に立派な事だと思います。常に前向きの姿勢で意欲的に物事を進めて行かれる姿勢は、将来音楽の道を目指す若手音楽家にとってこの上ない指針とモデルになっていることに疑いありません。音楽的才能と個性的な魅力を上手く生かしながら大きく自分の道を歩んで行かれており、私自身常に感服致しております。

桐朋学園在学中に毛利伯郎門下で頭角を現わし、将来を嘱望される存在になりました。早くから演奏活動を始められ、美しい音色と幅広い表現力で多くの聴衆を魅了されてこられました。一枚目のCDが大変な評判になったのを覚えておられる方も多いと思います。同じころ東京文化会館でリサイタルをされましたが、何と満員のお客様でした！当時からソロ活動のみならず、室内楽活動にも真剣に取り組み、室内楽奏者としてかけがえの無い存在となられました。それが現在のクレズマーグループのチェリストとして、またバロック・チェロ演奏家としての高い評価に繋がっているように思います。加えて新倉さんの抜きんでた存在価値の大きな点は、彼女の「チェロという楽器を、クラシック音楽をもっとポピュラーなものにしたい！」という強い意志を持っておられることではないでしょうか。それはリサイタルのプログラミングの内容にも反映されていますし、ご自身の解説文にも良く現れています。

また、一般的に演奏家の中には喋るのが不得手な方が多いのですが、その面でも新倉さんは新しい境地を開拓され、余りに上手になられたため司会専門のマネージメントにも所属されております。コマーシャルへの出演もその一環となるのですが、そのブランドの選び方も考え抜かれたもので、上手くご自分の演奏に繋げていかれ「大したものだ」と感心致しました。

また、最近ではステージプレゼンスに大きな位置を占める女性演奏家のステージ衣裳にも積極的に取り組まれており、若い方とのコラボが実を結びつつあると伺っております。留学されたスイスを本拠に海外での演奏活動を広げられているだけでなく、数々のコンクールや講習会等に参加されて自己を磨く努力を続けておられるのには唯々頭が下がるのみです。

最近の作曲委嘱活動等を含め、新倉さんのますますのご活躍を期待致しております。此度は本当におめでとう御座いました！